北海道小平高等養護学校

第2回コミュニティスクール 実施報告

〈説明〉

I 地域防災と本校の取組について（総務部長：扇子）

スライドを活用して、一日防災学校などの取組について説明した。

〈交流〉

2グループに分かれて、「防災に係る地域との協働について」をテーマに意見交流を行った。

挙げられた意見

- ・防災は町役場が中心となっている。町主催の講習会などを実施している。
- ・鬼鹿小学校は、避難場所となっているが非常食や水、段ボールベッド等がない。災害によっては高等養護に避難することが適しているが、物理的な距離がある。そのため長期避難時は群来るとなるだろう。
- ・小平中学校では、幼稚園や小学校と合同で防災学校を実施。また、避難所としての受け入れを想定した訓練も年に2回実施。登下校時の災害については、一斉メールにて連絡。
- ・「小学校から高等養護まで避難できるか」、「本校生徒が協力（受け入れできるか）」などをねらいとし、幼稚園、小学校、高等養護で一日防災教室を実施してはどうか。
- ・帰省帰舎時の災害発生については、バス会社と連絡することとなっている。生徒と連絡が取れなくても、バス会社から連絡をいただき安否を確認できる。
- ・町の防災マニュアルに従い、行政と協力しつつ避難者を受け入れるシミュレーションが求められる。

〈見学〉

2グループに分かれて、作業学習、生活科学、音楽の授業を見学した。

〈交流〉

2グループに分かれて、見学の感想や地域協働に向けたアイデアについて共有した。

挙げられた意見

- ・製品がとても丁寧できれいだった。
- ・窯業作業の説明を生徒がしてくれて分かりやすかった。
- ・お客さんが来た時に高等養護の製品を使っている。製品を通じて本校とつながっていることもある。
- ・せっかく生徒が作った素敵な製品なので、多くの人に見てもらいたいと思い、買った後に周りの人に伝えている。もっと製品をアピールする機会があると良い。また、より多くの人目に入る機会があると良いのではないかな。
- ・製品（B級品）を何らかの形で処理できないか。生徒たちがせっかく作ったものであるから、報われるようなシステムを探したい。